

北海道駒ヶ岳の噴火シナリオと火山災害対策 Eruption Scenarios and Volcanic Risk Mitigation Strategies of Hokkaido Komagatake Volcano, Northern Japan

吉本 充宏^{1*}
Mitsuhiro Yoshimoto^{1*}

¹ 北海道大学大学院理学研究院自然史科学部門
¹Department of Natural History Sciences, Faculty of Science, Hokkaido University

北海道駒ヶ岳火山は、1640年の噴火を皮切りに、最近350年間に4回のVEI=4の火砕流を伴う軽石噴火を起こしている。最新の軽石噴火である1929年噴火は小噴火開始から9時間後に軽石噴火に移行、その3時間後に最初の火砕流が発生し、噴火開始から24時間後には終息した。1929年噴火以降は、1942年にマグマ噴火(VEI=2)を起こし、その後1996年から2000年の水蒸気噴火まで、活動は低調に推移した。駒ヶ岳周辺町村では、将来1929年噴火と同等の噴火が起こった場合、迅速な対応が求められることから、1980年に火山活動が低調であったにもかかわらず、全国に先駆けて火山災害対策に乗り出した。これ以降、行政担当者と研究者が協力して防災計画の策定し、防災教育などを継続して行っている。1996年の水蒸気噴火発生の際には、多くの問題点が見いだされ、防災計画の見直しが行われた。この改訂では、1929年噴火をモデルに噴火シナリオを作成し、それに基づく行政対応が検討された。本発表では、駒ヶ岳の火山災害対策の推移、これまでの取り組み、現時点での問題点について報告する。また、2000年以降の研究によって、噴火史が大きく書き換えられた。これまでの噴火シナリオの妥当性についても検討する。

キーワード: 北海道駒ヶ岳火山, 噴火シナリオ, 火山災害対策
Keywords: Hokkaido-Komagatake Volcano, Eruption Scenarios, Volcanic Risk Mitigation